

川島ミツエと東洋女子歯科医学専門学校

川島 真人

社会医療法人 川島整形外科病院

川島ミツエは明治42年6月23日、築上郡大平村に生まれた。今永正樹氏の“中津城下豪商屋号長”によると別所家の祖先は小笠原藩の時代から商人で屋号を升屋と言った。当時の記録では、升屋長左衛門として中津市米町に居住していた。江戸末期から明治の初めには中津市船町の永照寺の横に店を構えていた升屋・別所利兵衛がミツエの祖父にあたる。

中津市宮夫の別所家には船の廻船状があることから廻船問屋を営んでいたようである。また中津市虻瀬町の別所家(利兵衛の弟)には沢山の福帳や証文、升屋の看板などもあることから薬や様々な商品を扱っていたことが伺える。

福沢諭吉の家のすぐ近くだったということからか、諭吉もよくこの廻船問屋に立ち寄ったという話をミツエの母・テルから聞いた事がある。

別所家からはリヤウが右田力太郎の父・市蔵に嫁いだ。力太郎は岡山医学校を出て、北里伝染病研究所に勤め、明治32年には中津市島田にて中津で最初の民間病院である中津病院を設立した。力太郎は明治22年、中津市寺町の松巖寺にて、船町の酢屋十四代の富永章一郎の献体解剖を執刀した。寺町の円応寺には下毛医会館の解剖記念碑が建設されている。村上医家史料館には、右田力太郎による詳細な解剖の記録と村上田長と右田力太郎の往復書簡が残っており、力太郎が感染症の専門家であることがよく分かる。

父、利吉の時代には商売が立ち行かなくなり中津市郊外の上毛郡友枝に転居して入歯を作る仕事をしてきた。ミツエは友枝ののどかな山村で育ち、右田家や別所一族の期待を担って中津女学校を卒業。当時としては大変珍しい歯科医となるべく、東洋女子歯科医学専門学校の二期生として昭和2年に入学した。ミツエの東京行には、ミツエの叔母・右田フジエが東京に住んでいたという事情があり、上京したミツエの面倒を見ていたようである。フジエは津和野藩主亀井家の長女・保子の乳母となり、現天皇の叔父・東伏見宮に嫁がれたため、乳母であるフジエも老女として宮邸に住んでお仕えしていた。貧乏学生の母はフジエに面倒を見てもらいながら、しばしば宮邸にも出入りしていたようであった。

その東洋女子歯科医学専門学校時代の資料は、ミツエの家から卒業アルバムなど出てきているので紹介する。ミツエは専門学校を昭和6年に卒業後、昭和7年に郷里の友枝で開業。昭和9年には山国の守実に移転、昭和11年によりやく中津市内の船場に開業することが出来た。日本で最初の歯科医・小幡英之助を出した中津市においても、当時は男尊女卑の風潮が強い時代であり、女性が歯科医を開業するということには抵抗があり、大変難しい時代であったようである。女性歯科医が極めて珍しく、大変苦勞の多い中、ミツエは「診療は、私の生命であり、生き甲斐であります。一番大事な事は、毎日の診療であり、一日を終えた時の安堵であり喜びであります」と言っており、小幡英之助が福沢精神を受け継がれたのと同じく、患者さんを分け隔てなく80歳まで現役で惜しみなく自分の持てる力全てを歯科医療に注いできた。